

家庭科

男女共学の家庭科 —中高一貫を踏まえた高2の授業実践—

原 順子

【抄録】 高校家庭科が男女共通履修となり、4年目になる。中高一貫教育の本校の優位性を生かして、中学との学習内容の重複を避け、6年目の学習内容の精通・系統化に努めいくつかの工夫をしてきた。例えば、高1での技術的領域の履修、20人という少人数での実習（または課題学習）、家庭生活領域の高2後期の履修等である。今回の報告では、このうち、高2での家庭生活領域を中心とした「家庭一般」での授業実践を取り上げる。

【キーワード】

1. はじめに

高校家庭科が男女共修になって、「中学との学習内容の重複」の改善の必要性を強く感じている。本校は高校から入学する生徒もいるため、中学での内容を大きく変えることはせず、しかも本校の一貫校と

しての特色を生かして6年間で学習内容を精選・系統化ができないかと検討し、現在次項のような内容を履修させている。今回はこの中でも高2の「住生活」と「家庭生活」の授業実践を中心に報告したい。

2. 学習内容とその特色

	<前 期>		<後 期>	
中1	技術（木材加工）		家庭（家庭生活）	
中2	家庭（食生活）		技術（金属加工・電気）	
A組	技術（機械と情報・電気）		家庭（衣生活）	
B組	家庭（衣生活）		技術（機械と情報・電気）	

	<前 期>		<後 期>	
高1 前半20名	食生活（15）・生活と技術（15）		食生活実習（15）	生活と技術課題研究（15）
後半20名			生活と技術課題研究（15）	食生活実習（15）
高2 前半20名	住生活実習（15）	保育実習（15）	家庭生活（15）・家庭経済（15）	
後半20名	保育実習（15）	住生活実習（15）		
今年度は 高3 27名	選択 家庭一般…「数学」「英語」「家庭一般」の中から選択（45）			

(1) 特色その1

—高1で技術的領域を学ぶ

昨年度まではここで被服領域を学習していた。しかし中高の精選・系統化を検討した結果、生活と技術の結びつきを深めさせるために高1で技術領域も履修させることにした。技術科の教官が担当し、「消費生活とエネルギー」「材木加工と玩具」「情報処理と生活」をテーマに学習している。これについては、「現在初年度につき摸索中」とのことである。

(2) 特色その2

—実習（または課題学習）は20人で行う

高1では後期、高2では前期に家庭科の時間を2時間続きにして、集中し実習を行う。その時の人数は20名である。1学級の人数は40名であるから、学級を半分に分ける。分け方は単純に名列順で1~20番を前半、21~40番を後半とする。本校の名列順は男女で分けず、混合のアイウエオ順などで男女のばらつきは多少あるが、問題はない。例を挙げると、高2のA組1番の生徒は前期の前半（6月中旬まで）に住生活の実習を行い、後半（10月第1週まで）に保育の実習を行う。後期は時間割が変わり、1時間ずつに単独の時間割が組まれ、1学級単位で座学となる。教官の方は前期は20人ずつの生徒は、前・後半で同じ実習の授業を行い、後期は週1回、1時間の講義をする。

(3) 特色その3

—「家庭生活」領域を高2の後期で履修する。

「家庭生活」領域は通常高1で履修することが多いと聞く。しかし、生徒の実態からすると主体的に

「家庭」を考えていくには高1より学年が進んだ方が効果的だと考え、「家庭生活」を必修として最後の高2の後期に履修させることにした。

3. 授業実践報告「高校2年家庭一般」

高校2年の年間計画(60時間)

- ・前期(30時間) 一住生活(15時間)
保育(15時間)
- ・後期(30時間) 一家庭生活(15時間)
家庭経済(15時間)

(1) 住生活(15時間)の実践報告

① ねらい—住み易い住宅を考える

住生活は食生活や衣生活に比べ、男女の体験差がなく、興味は同等（と言うより個人差）なので取り組みやすい。自然（光や風）を取り入れながら、人が快適に暮らせる家づくりをめざすことで、住宅になされている工夫を知り、現代の住宅事情を考えさせることをねらいとした。

② 方法—コンピュータの図形ソフトを使って住宅の平面図を描く。

コンピュータを用いると手軽にしかもきれいに図面が描け、生徒の学習意欲を引き出しやすい。また、20人で学習するため、一人一台のハード利用が可能である。そこで初步的なソフトであるが「ハイパーキューブ」（スズキ教育ソフト）の「キューブペイント」を使い、平面図を描かせた。生徒には自分のフロッピーディスクを用意させ、保存しながら描き、最終的にはフロッピーディスクを提出させた。

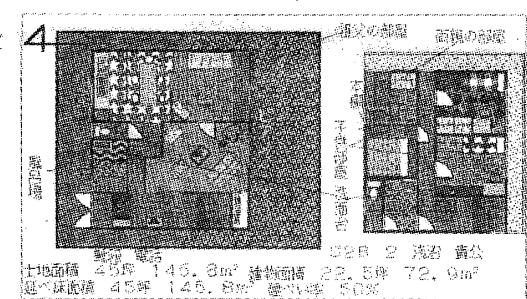
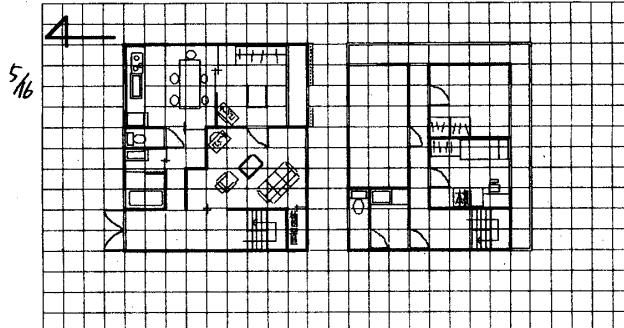
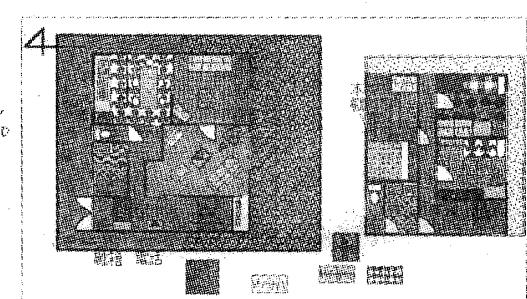
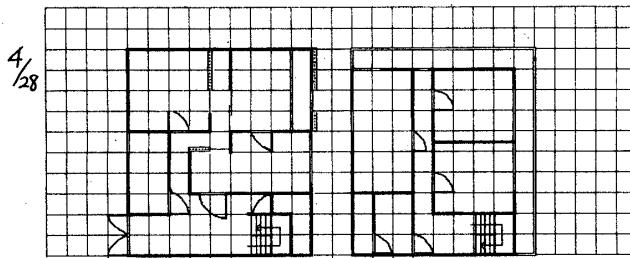
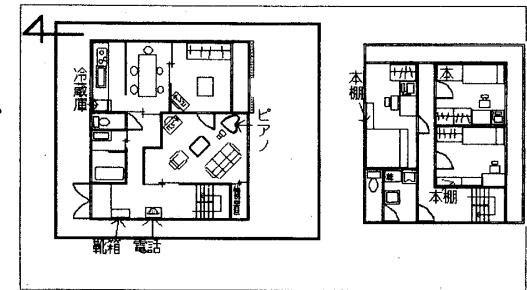
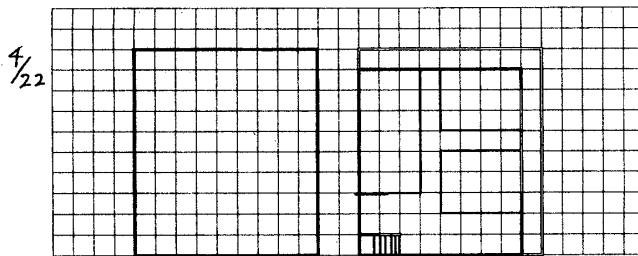
③ 指導計画

- | | |
|---|----------------|
| 1. 住まいの役割を考える（一橋出版ビデオ、住生活の設計） | 1時間 |
| 2. 現代の住生活を考える（本校近くの分譲マンションの広告から） | 1時間 |
| 3. 住空間の設計 | 13時間 |
| ア. これから描く住宅の条件を知る | (1時間) |
| 条件<住む人> | |
| ・高齢者1人、夫婦、子ども2人の5人家族。（高齢者・子どもの年齢・性別は問わない） | |
| <広さ> | |
| ・建物面積 18坪～22.5坪 | |
| ・延床面積 36坪～45坪 | |
| （土地面積は問わないが、画面に入ることとする） | |
| イ. コンピュータの扱いに慣れる | (1時間) |
| ウ. 住宅の規模・寸法を決める | (2時間) 展開例本時1／2 |
| エ. 間取り・ソーニングに分ける | (2時間) |
| オ. ドア・窓の開閉部を決める | (2時間) |
| カ. 家具を配置する | (2時間) |
| キ. 家具に色をつける | (2時間) |
| ク. 庭（車庫等）をつくり、氏名、土地面積、建物面積、延床面積、建ぺい率をm ² で記入し、フロッピーディスクを提出 | (1時間) |

④授業展開例

	指導内容	学習内容	時間	指導上の留意点	備考
導入	準備 本時の目標確認	自分用のコンピュータの電源を入れ、キーボードを立ち上げる。 住宅の大きさを決めるなどを確認する。	5分	出欠の確認 保存用フロッピーの忘れ物チェック	教師用、生徒用コンピュータ、テレビの3つをリンクしておく。
展開	描き方の説明 ・方眼を画面に出しての大きさの確認 ・「壁」「扉や家具」を描く線の太さの確認 ・方角の統一	説明をテレビ画面を見ながら聞き、理解する。 ・線の太さの違いを実際に描いて確認をする。	40分	教師用コンピュータを操作しながら説明する。 ・方眼1マスが90cm四方 ・2マスで1畳 ・4マスで1坪 ・壁はドット3 ・家具はドット1・色は黒 ・画面上が北 ・1階が左2階が右	
開拓	住宅づくり開始 住む人の条件の確認	条件の広さを把握しながら描いていく。 ・教師用コンピュータから自分用コンピュータに方眼画面を呼び込む。 ・自分のフロッピーディスクに保存する ・18~22.5坪(72~90マス)の広さを視覚的につかむ。 住む家族のイメージを決める ・子どもや高齢者の年齢、性別を考える ・プリントやパンフレットまたは自宅を参考しながら、必要な部屋数を考える ・方眼画面にあわせて1階と2階の外壁を描く。		巡回をしながら個別指導する。 ・ハードディスクはさわらせない。	
まとめ	本時のまとめ 次時の予告	・面積が条件にあってるか確認して自分のフロッピーに保存し、提出する。	5分	・方眼のファイルとは別に保存するように指導する。 次回はゾーニングし間取りを決めることを予告する。	

家庭科 中高一貫を踏まえた高2の授業実践



⑤ 生徒の反応（作品例は別紙参照）

初めにうちは、コンピュータで自在に四角や直線が描けると言うだけで、「感動」しながら授業は進んでいった。しかし、間取りは、ゾーニングは、家具寸法は、と具体的になっていくにつれ、トイレに3畳分使ったり、階段が1階と2階とで違う場所についていたりと、マウスが止まった生徒も多かった。そんな時は、「つまづいたところがその生徒に必要な基礎・基本」と考えて、自分の家はどうなっているのか調べさせたり、本を読ませたりして解決していく。住宅展示場へ聞きに行った生徒もいた。

⑥ 内容についての考察と今後の課題

今回は、「住生活の設計」という単元にしぼり、居住性や管理については触れなかった。15時間という時間は平面図を描くには適當だった。生徒がこれから社会に出て必要なのは、よりよい居住性の追求や管理（環境衛生も含めて）についてではないか、という思いもあった。しかし、平面図を描いて初めて廊下の幅やドアの付き方にも、人体寸法や動線を短くするという根拠があることを知った生徒が多くだったので、それなりに成果はあったと言える。ただ、課題として残ったのはこちらが出した条件の出し方だ。1階床面積が18~22.5坪を広い、狭い、どう受け止めたか。5人家族としたのは適當だったのか。生徒一人ひとりの住環境や、家族構成がまちまちなので、プライバシーを考慮して条件を統一したが、設定の根拠を具体的にするとよかったですと反省している。今後の課題にしていきたい。

⑦ 方法についての今後の課題

コンピュータは他の教科でも使っているが、図を描くのは初めてだったので、新しい体験をさせることができた。男だから、女だからと言う声は全く

なかった。これらはよかった。しかし、あくまでも平面図を描いたにすぎないので、ダンボールやベニヤ板で本当にれるぐらいいの住宅をつくってみると、日当たり、通風、プライバシーへの考慮など様々な視覚から検討させることができたと思う。今後はこのことも視野に入れて考えていきたい。CADソフトも欲しい。

（2）家庭生活（15時間）の実践報告

① ねらい一家族について考える。

先ほど述べたように、「家庭生活」は意図して高2の後期に履修させている。「家庭科でこれまで学んできたことを生かす場」＝「家庭」を「営む当事者」の立場で考えてもらいたいからだ。取り上げた題材は家庭生活のなかでも社会とともに今後も変化していくと思われる「結婚」と「高齢化」である。これらの諸問題を提起して「今いる家族」「これからの家族」を考えるきっかけを持たせ、他者への理解につなげることをねらいとした。

② 方法—授業内容の感想を書かせる。次時に読み合う。それ繰り返す。

ねらいは大きいが半年のつきあいでは高校二年生が何を考えているのか（いないのか）わからなかつた。生徒の実態と合わなければ何を言っても空回りするだけだ。悩んだ末に「どう思っているのか生徒に聞いてみよう。さらに、他の生徒の意見を読み合い、どう思ったか聞こう」というところたどり着いた。授業で話した題材についての感想を終わりの5~10分でまとめて書き、無記名で提出する。次のはじめに学級人数分印刷した「感想集」を配付し、さらに意見を求める。という「書く→読み合う」の繰り返しの授業実践を試みた。

③ 指導計画

1. 現代の家族の特徴	2時間
ア. あなたにとって家族とは、家庭とは	(1時間)
イ. 世帯規模が縮小した（夫婦家庭制の定着）のはなぜか	(1時間)
2. 家族の始まり「結婚」	4時間
ア. 結婚形態の歴史・結婚に関するアンケート（結果は資料参照）	(1時間)
イ. アンケート結果と現代の結婚の傾向	(2時間)
ウ. 結婚と法律（現代の民法における結婚の要件と効用）	(1時間)
3. 民法改正の動き	4時間
ア. 結婚適齢・再婚禁止期間の是非	(1時間)
イ. 夫婦別姓採用の動き（なぜ「夫婦別姓」なのか）	(2時間)
ウ. 離婚（有責主義から破綻主義へ）	(1時間) 展開例は本時
4. 高齢社会をむかえて	5時間

離婚 「有責主義」と「破綻主義」.... どう思う。

高2B

有責主義をあきらめよう。

破綻主義は道德的ではない。

第1次世界大戦で負傷した人が少なかった。

自らの力で稼ぐのがいい。

不景気のときに稼ぐが、男の人の立場を守る。

義務感を持つべき。

破綻主義は離婚修復期を過ぎなくていい。

妻が消えた時 僕は消える。

お互いがお互いで生きたい一番良いと思う。

離婚原因をつくってさらに離婚をくりかねたりというのではなく、自分で生きなさい。

子供がうがつらう。

以前の考え方よりも、今の生活の方が大切だと思うから。
責任がどうこうというのはよくないと思う。本当に結婚生活が成立しないなら別離しても双方があいだにとっていいと思う。

有責主義も破綻主義もどちらかどちらかと思う。

「破綻主義」が平和いいと思うけど、離婚理由を作りが罪悪感を感じないままになってしまふかもれない。
でもやはり平和に離婚する方法がいい。夫婦はとくに離婚したいと思うから、「有責主義」よりも離婚が適切だと思う。

「破綻主義」の方が良い。ワンボトル相手に入りがいい。うまいやうと思う。その時、離婚をする方が良い。

やはり原因を作った方が離婚はいけないと思う。
相手をほらせらため離婚をしないといふんもいるので、まあ破綻主義もちゃんと養育費を払うといつたがまではいいのではいけないと思う。(しかしとくに法律がてままであるからされなき方がいい)

「有責主義」に付ける離婚の原因を作った人へ離婚したい。
という主張を認めて大事。その代わり相手の生活が保障されて、双方が同じ利益を得ようとしてくれてはならないと思う。

「破綻主義」に付ける養育費はちゃんと付けてはならない。
子供の責任を母親だけに押しつけるのはダメだ。

「有責主義」は当たり前だと思う。原因をつくった方が別離してくださいはフサケとなる。僕なら相手から感謝料をたぶんもらえないことは別れややらん。(想い出)
しかし「破綻主義」なら自分がその人のことを大嫌いで別離たくなってしまうがいいときには役立つ?。
もちろんそんな人とは結婚したくないけど。

③相手が離婚したいと思うのに、それを無理に引き止めるのは、なんとかいけないので、「有責主義」はやめた方がいい。
でも、お金の問題もあるし...。いきなり一人身になるのがこわいので、少しの間をおいて、女性が仕事を見つけるまでとか。おちついてから離婚をするのがいいと思う。
先生のボタンは本当にかわいいわ。

「有責主義」と「破綻主義」 どう思ふ?

友人Kさんは親が離婚して父兄と3人で暮らしています。

離婚理由は夫がエサレガ、いつも母親に対して「あなたの

許さない」と口にしているのであります。今は、子供が

いるけど、下ら、子供のことで「私が自分の立派な正義を

守るために死んでしまう。でなければ腹を痛めて産んで子

供に子ども恨み子といふ悪い事態にならぬ事が無い

から。実母を恨む子供があるなんて、悲しまざる。

本末転倒とも片親しかいはる家庭など想像できません。

廢の原因。

余談>私は地球のおかげで生きていいなー。世界征服をしたいなー。まじ。

高2B

⑥ 内容についての考察と今後の課題

「家庭生活」の内容として、この一連の授業が適切であったかという不安がまずある。全体を通じて感じたことであるが、高校生に家族関係の質問をするとき、はじめはたいていは子どもの視点から答える。これは当然のことだろう。自分が経験している家族の立場はそれしかないのだから。自分が当事者になったとして、と問い合わせてみてはじめて考えてみると、今はこれで良いのだろう。必修家庭科を総まとめとして、将来それが自立していく時の手助けになれば…と考えてほしいことを選んで授業を進めてみたが、伝わっただろうか。今は先のことと実感が湧かなくても、自分が家庭を築いていくかどうか選択する時に、思い出してくれたり、他者への理解につながってくれればよいのだが。

「実感がわからない」という点で工夫が足りなかつたと反省しているのは、「高齢社会をむかえて」を題材にしたところだ。質問に対する反応が鈍い。聞いてみると、「実感がわからない」「(年金制度で)自分たちが損をすると新聞で読んだ」「自分は長生きをするつもりはない」(では何歳まで生きたいかとの質問には「70でいい」と答える。70歳はもはや長寿ではないのだ)という意見だった。正直なところだろう。マスコミの論調も「高齢社会だ。たいへんだ。」と感じさせるものが多い。核家族化が進み、介護が必要なお年寄りと同居している生徒はわずかに2人(施設に祖父母がいるという生徒は0)の実態ならばいたしかたないのか。家族を考える時、「老い」は祖父母・親・自分と必ずやってくる未来のことだ。授業の内容が制度だけになってしまい、リアリティに欠けたことも反省している。老人病院を見学した際うかがった若い介護士さんの話を伝えたり、映画で良いものがあれば紹介したりといった工夫を今後はしていきたい。

⑦ 方法についての今後の課題

方法については、おおむね良かったと思う。授業中の発言だけでは数が少ないし、考えも偏りがちだ。「書いたものを読み合う」ことで自分以外の考えを知り、理解の幅が広がった。大半の生徒は、5~10分の時間によく考えて書いていた。本校独自の「総合人間科」の授業で「自分の意見をまとめ発表する」という訓練がされているかもしれない。ただ、少人数ではあるが、「こんなプライベートなことは答えたくない」「自分の考えを人に知られたくない」という生徒もいた。これはこれで一つの意思表示だ。生い立ちや抱えているものがそれぞれに違うものだから当然だ。

もう一つ、「書く→読み合う」が軌道に乗ってくると、「これ、お前が書いたのだろう」という書いた人搜しや「ウケねらい」も出てきた。これも授業への参加形態の一つか。「思ったことを書く」のだから、ダメとは言えない。文字を打ち直すのは莫大な時間がかかり、続かない。現在のところは、よりよい方法が見つからないが、書いたものをどう読みあうかで次の質問への答え方が変わってくる。生徒の考えがより深まり、自分以外の立場(異性、親、高齢者など)からも考えることができるように、それぞれの立場を代弁する語りで討論を進めるなど、読み合いかけたの工夫を今後の課題としたい。

4. おわりに

中高一貫だからこそ学習内容の精選を、と進めてきたが「家庭生活」でも中一と高二では大きく違う。他の領域でも内容が違えば重複にはならないのでは、と思うこともある。しかし、「衣生活」を中学だけに「保育」を高校だけにした結果、時間にゆとりが生まれた。何かを「つくる」「書く」という作業はその前に「考える」作業が必要だ。それには時間がいる。「生活を見つめる」第一歩はそんな時間か生まれると思う。

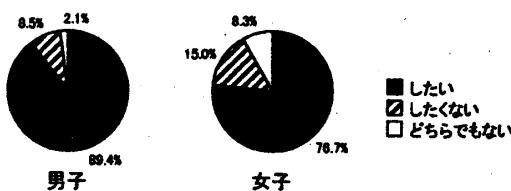
最後にこの報告の題は「男女共学の家庭科」だが、授業で「共学だから」と意識したところは特になかった。男女で学ぶのが自然で当たり前になってきたのが嬉しい。それとともに家庭科を離れて男女差という点で感じるのは、女子の元気さにくらべた男子の無気力さだ。最近、ジェンダー、女性学、男性学、という言葉も聞かれるようになった。興味深いところなので自分の研究課題に加え、今後の授業にも取り入れていけるよう努力したい。

「結婚」に関するアンケート

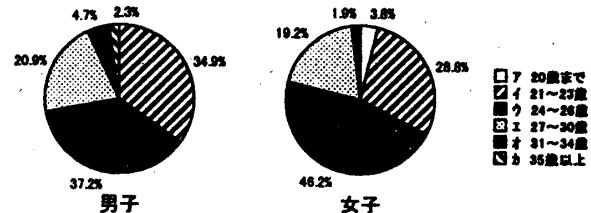
高2'97.11月

男子	44
女子	60
計	104

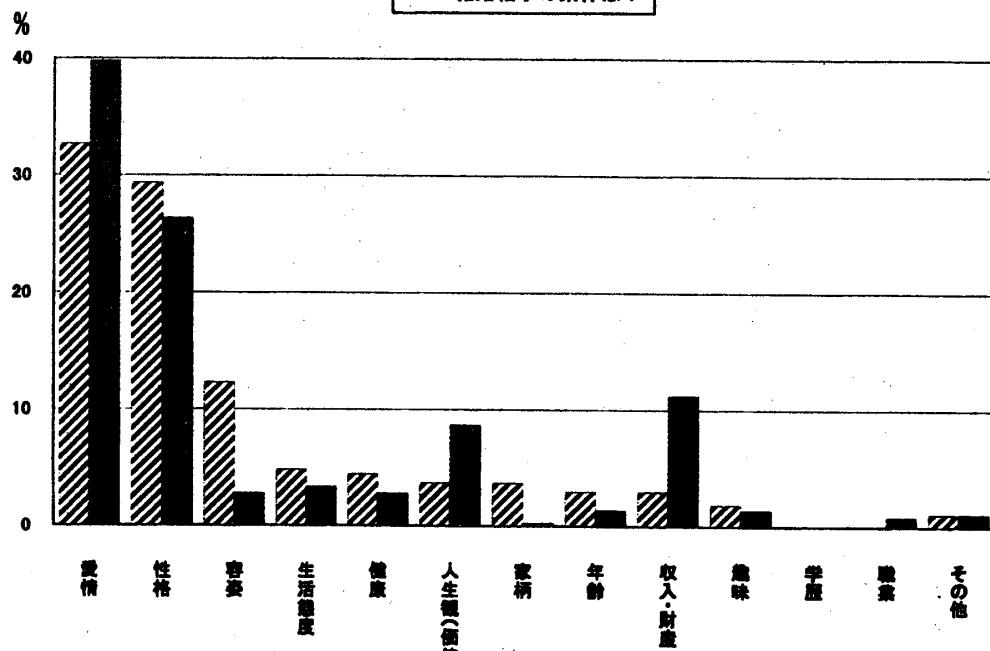
Q1 将来結婚は？



Q2 何歳で結婚？



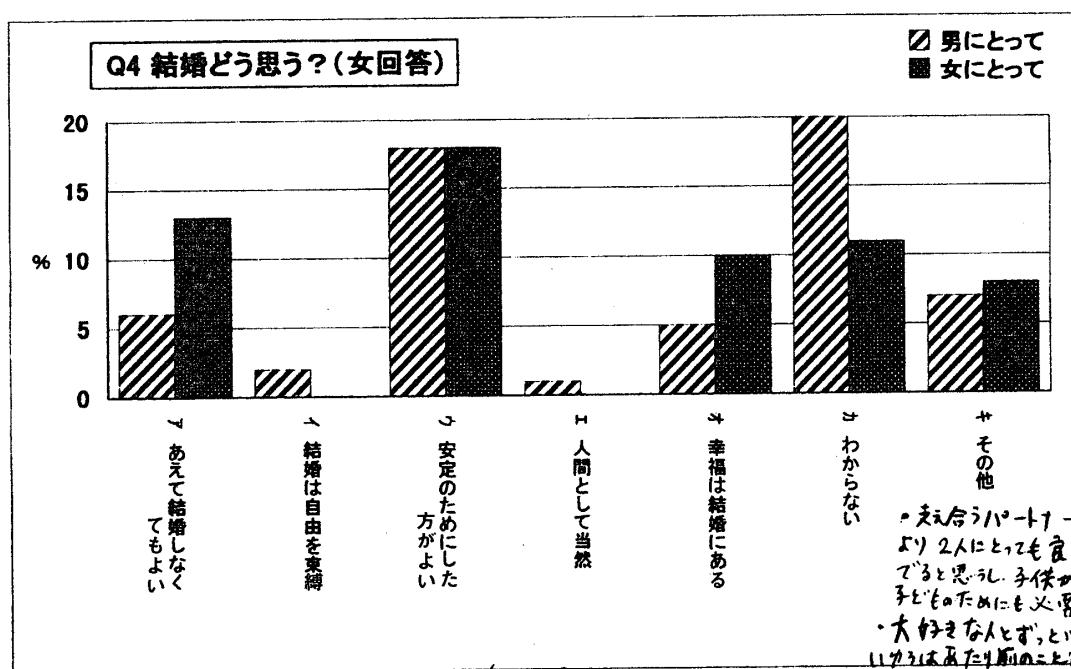
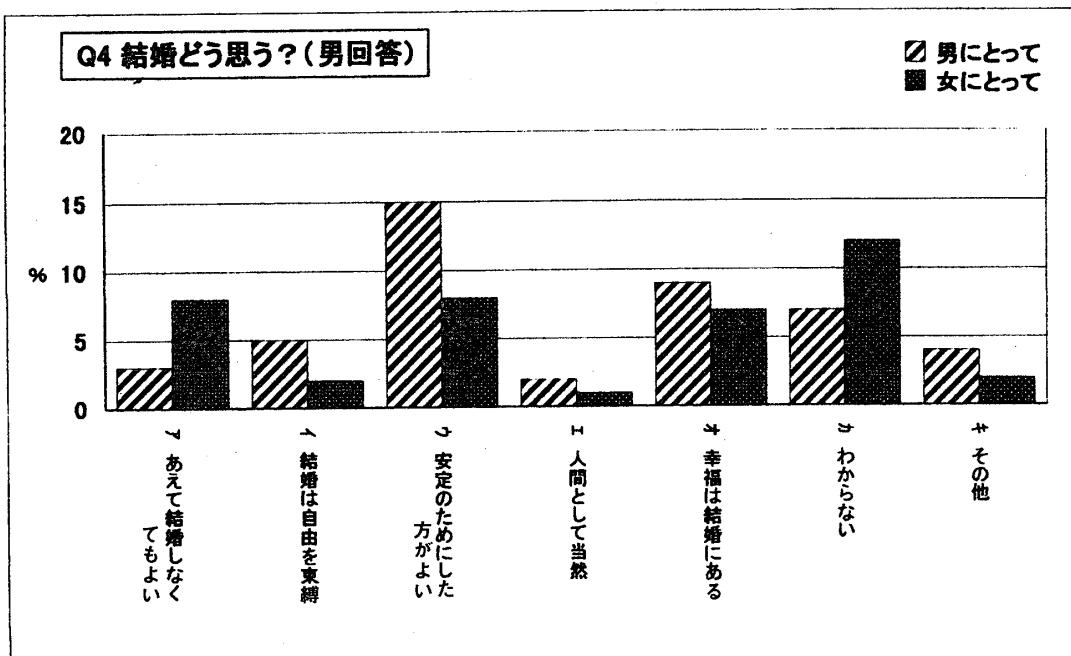
Q3 結婚相手の条件は？



■ 男子
■ 女子

その他

- ・うす味が好きか、こい味が好きか。
- ・生活習慣
- ・子供が好き
- ・小林武史
- ・知的レベルの高いもの
- ・人間関係
- ・ある一人の女性を生涯かけておいつぶやかれろ



- ・結婚はしたくない人が多いのだから、何とも言えない
・自分の人生に満足しているのに結婚が強制される気がしたくなかった
・人立ちできればあえて結婚しなくても良い
・結婚は自由を束縛するものだから、一生しない方がよい
・精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい
・人間である以上、当然結婚した方がよい
・何と言っても「幸福」は結婚にあるのだから、した方がよい
・わからない
・その他
- (女回答)・社会的な偏見が気にならぬなら結婚した方がいいかも
・結婚はしてもよいし、しなくてもよい。下
・一生、一人じゃ寂しいから結婚した方がよい。得るためにも同棲より結婚だと思う。
・したけりやすればええ
・結婚=生きなんだから愛情なくてはやっていけないと思う
- ・ええ合うパートナーがいいが、
より2人にしても良い影響ができると思われる。子供がいるのなら
子どものためにも必要だとと思う。
・大好きなんとす、といふのはいいが、
いかにも肩たり腰のことを思ふ。

その他(男回答)

- ・愛があるから結婚するんだ
- ・今の社会がともと女性向きに出来てない上に、そうすることが常識となってきている(女性にとって)
- ・本当に好きな人と一緒ならいいが三満たされるもの
- ・3一人の人物が自分に向かっていければよい